重症心身障害児者施設における口腔ケアチームの運用に係る『口腔ケアコンサルテーションプログラム』

びわこ学園医療福祉センター野洲
〒520-2321　滋賀県野洲市北櫻 978-2

助成事業の概要

重症心身障害児者は嚥下機能の低下により呼吸器感染を発症しやすく、状態が容易に悪化するといった特徴があります。誤嚥性肺炎の予防のためには口の中を清潔に保つことが重要とされていますが、重症心身障害児者は開口が困難であったり歯磨きの拒否など、さまざまな要因で口腔内の衛生状態が保ちにくい状況です。そのため、施設全体の口腔ケアの質を向上する目的で、2022 年の 4 月に口腔ケアチームを立ち上げて活動を進めています。より専門的に活動を推進するために、口腔ケアチームの活動のサポートとして、すでに高齢者施設での口腔ケアチームの支援実績があり、

口腔ケアの専門家でもある、施設外部の慢性看護専門看護師を招いて『口腔ケアコンサルテーション』を受けながら活動を進めました。
口腔ケアの専門家には一年で６回訪問してもらい、直接口腔ケアの指導を受けることができました。年度当初は 6 月～11 月までの連続した６ヶ月で口腔ケアの指導を受ける予定にしていましたが、年度途中で生じる双方の事情により、事業の完了は 3 月の半ばになりました。

事業の成果

今年度も昨年度同様に口腔ケアを専門とする慢性看護専門看護師に来園してもらい、直接指導を受けながら口腔ケアの向上に努めてまいりました。

口腔ケアの専門家の介入では、その月に口腔ケアを実施する利用者さんの情報共有から始まります。口腔ケアといっても、お口の中だけをみているのではありません。飲んでいる薬、摂食嚥下機能、筋緊張の状態、覚醒レベル、姿勢など全体をみて、利用者さんの状態理解を深めました。そして、何より口腔ケアを単に歯みがきとしてではなく、看護の視点で提供することの重要性を学びました。次に、利用者さんのベッドサイドを訪問して実際の介入に入ります。はじめに声をかけながら体に触れて、緊張をほぐしながら反応を観察します。緊張がほぐれたらようやく歯みがきを実施します。そして、歯みがきをしながら、同時に口腔内の観察をして評価をします。口腔環境の評価には、広く一般的に活用されている評価表を用いました。しかし、利用者さんの口の中を観察するのは簡単ではありません。口を大きく開けられなかったり、口の周りを触られるのが嫌だったりするので、電気で口の中を照らしながらみていきました。口の中を丹念に観察することで、普段何気なく実施している歯みがきの時には気がつかなかったことがみえてきました。実際に利用者さんの口腔ケアを実施しながら、より適切で苦痛を軽減できる方法について確認できたので、日常的な口腔ケアに活かすこともできました。具体的には、口腔周囲の過敏により口腔ケアに苦痛を抱いていた利用者さんの実施方法を、より愛護的に変更し、関わる職員に周知することで口腔ケアの受け入れが格段に改善した事例がありました。また、歯ブラシの大きさを変えることで、多くの利用者さんで口腔ケアに伴う不快感を軽減できたのも大きな成果と考えます。

その他、短時間ではありましたが学習会の実施や小テストをすることで、自分達が身につけた口腔ケアに関する知識を広く職員に伝達することもできました。

成果の広報・公表

当施設の組織は 3 つの病棟と各部門から構成しています。毎年 3 月には各病棟と部門から、一年の活動を報告する実践報告会を実施しており、口腔ケアチームでは重症心身障害看護師の活動報告として、当施設の職員 62 名を対象に口腔ケアチームの取り組みを報告することができました。

また、日本重症心身障害福祉協会では重症心身障害の看護領域で、高い倫理観と熟練した看護技術と知識を用いて専門性の高い看護実践が提供できる看護師の育成として、日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護協会制度を設けています。当施設の口腔ケアチームに所属している看護師は、いずれも協会から認定重症心身障害看護師としての認定を取得しています。そのため、日本重症心身障害福祉協会のホームページで『認定重症心身障害看護師からの声』のなかで、簡単ではありますが口腔ケアチームを立ち上げて活動していることを紹介させていただくことができました。

今後の展開

重症心身障害児者の口腔環境は「歯列が不正である」「口腔内外に過敏性がある」「口腔内が乾燥しやすい」「口腔ケアへの協力を得ることが難しい」などさまざまな課題があり、それらの課題が個々の利用者さんによって個別性が大きいという特徴があります。

そのため、多くの人が普通に毎日行っている口腔ケアが、重症心身障害児者にとっては痛くて不快で苦痛を伴う辛い時間になっています。今までは、その辛い口腔ケアに対して利用者さんに我慢を強いてきましたが、口腔ケア実施前の過敏性の除去、姿勢の工夫、口腔ケア用品の選定によって、口腔ケアでの苦痛が軽減できることがわかってきました。

今後は各利用者さんの個別性に応じた口腔ケアを提供することによって、今まで受け入れにくかった口腔ケアの時間を、気持ちが良くて楽しい時間として提供できることが今後の目標です。

また、口腔ケアに困っている施設は当施設だけではないと思いますので、自施設だけの活動に留まらず、他の施設とも情報を交換しながら活動を進められればと考えております。